19.3.22 朝日(m) 14

# 気力と集中力で医学部受験に挑もう！

## 医療人を目指す君へ

NEMOTO SHINTARO

高い使命感と倫理観を胸に、進化を続ける医療の最前線で尊い人命に対峙する医師たち。彼らを突き動かす原動力の根底には、人間愛が息づいています。そんな医師のひとりである根本慎太郎教授に、受験生時代のこと、仕事のやりがいなどをうかがいました。

### 現役突破に向けて走り抜いた受験生時代

●高校時代は、進路について色々な迷いがありました。得意なのは理系科目でしたが、人文学的なものが好きでしたので、学校の先生がいいのだろうかとか、宇宙関係の仕事にも魅力を感じていました。そんなとき頭に浮かんだのが医者の仕事でした。医者なら人間が相手だし、理系で、しかも研究もする。自分が興味のあることに合っているのではないかと思ったんです。進むべき道を決めたのは、高校2年生の終わりころと遅めでした。

●どうしても現役合格をしたかったので、予備校の一番レベルの高いコースに入って、そこのテキストをメインに勉強をしようと考えました。あれこれ手を出さずに、毎日の予習と復習だけに集中すると決めたんです。家では勉強をするか、ご飯を食べるか、寝るか、そんな生活でしたね。

●心臓外科医を選んだのは、心臓には子どもから大人までさまざまな病気があり、治療の可能性が未知数なので探究のしがいがありそうだと考えたからです。卒業後は多くの心臓手術が経験でき、海外留学のチャンスにも恵まれた東京女子医科大学の外科に進むことにしました。

大阪医科大学 医学部　外科学講座　胸部外科学教室
医学博士　専門教授　**根本 慎太郎さん**

ねもと　しんたろう●1989年新潟大学医学部を卒業後、東京女子医科大学にて臨床研修開始。米国サウスカロライナ医科大学、米国ベイラー医科大学、豪州国メルボルン王立小児病院、マレーシア国立心臓病センターなど、海外での病院勤務を経て2014年より現職。ノルウッド手術などの難易度の高い手術で先天性心疾患を持つ子どもたちを数多く救い、また新しい手術材料の開発などの分野で幅広く活躍している。

### 医師になっても、広く深く学ぶ姿勢を持ち続けよう

●現在は小児の先天性心疾患での手術治療の工夫の研究などを行っていますが、手術のクオリティをあげるために医療材料の開発研究も不可欠です。たとえば、赤ちゃんの手術では、細くなった肺動脈を拡げるために血管の狭いところを開いて、パッチを縫い付けるのですが、年月が経つとまた狭くなって再手術が必要なケースが出てきます。そこで、体内に入っても自分の組織になり、子どもの成長とともに伸びることができる布素材のパッチの開発を産学連携で進めてきました。その治験が今年から始まり、2022年の承認申請を目指しています。

●小児の心臓手術はとても難しいですが、それだけにやりがいは大きいです。年間100件ほどの手術をしていますが、元気に成長した子どもたちから、近況を知らせる年賀状が届くんです。それを見るのは、ほんとうに嬉しく、医師冥利につきます。

●尊い人命を預かる医師には、まず第一に人間性が問われます。人の喜怒哀楽を理解できる豊かな心を養い、医術の研究を重ねて腕を磨く。常に進化していかなければならない職業です。受験勉強は気力と集中力で乗り越え、医師になったあともモチベーションを高く持ち続けること。広く深く学び、自分の強みを持ち、ファイティングスピリットで日本の医療を支えていって欲しいですね。

（談）